

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101037
法人名	医療法人ミネルワ会
事業所名	グループホームミネルワ
所在地	松山市衣山5丁目717-1
自己評価作成日	平成29年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節に応じた行事を行い1年を通して楽しめている。ボランティアセンターを活用して、ホームに来てもらえる仕組みを作った。外出行事以外にも天気の良い日には、散歩・ドライブに行き気分転換を図っている。 ・少人数で生活されているので、職員と利用者・利用者同士の関係づくりに取り組み、なじみの関係が出来るように取り組んでいる。 ・食事は、リクエストに答えたメニューを作ったり、誕生日メニュー・季節時に応じたメニューを作っている。誕生日には外食を楽しまれる利用者もおられる。 ・力を入れているのは、健康づくりで、ストレッチや口腔体操・立位訓練を実施することで、誤嚥が少なくなり、健康を保てる支援が出来ている。最後までおいしく食べること、歩く事、トイレでの排泄が出来るように支援している。 ・母体が病院ということもあり、健康管理は充実しており、週1回の訪問看護・月2回の往診、症状により病院受診と、急変時24時間体制で連絡・対応が出来る体制である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

私鉄沿線の閑静な住宅街にある開設3年目の事業所である。母体は医療機関であり、関連施設として老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどを備え、各分野の専門職員による福祉サービスを展開している。利用者や家族から信頼されるとともに、地域に根ざし住民にも親しまれる事業所を目指し管理者と職員が日々ケアの充実に努めている。医療連携体制として訪問看護の導入や看護師の配置など、利用者の健康面を24時間体制でサポートしている。共用空間のバルコニーやテラスは明るくゆったりとした解放感を放っており、リビングの一角には和室の畳コーナーを設け、体を休めるくつろぎのスペースになったり洗濯物を畳む場所になるなど、多様に活用することができる。専門の資格を保有し自己研鑽に努める職員が多く、それぞれ個々に目標を持って業務に励んでいる。利用者の生活に寄り添い本人本位のケアを目指しながら、認知症介護の専門性を活かした地域貢献にも期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ミネルワ

(ユニット名) 睦月(1階)

記入者(管理者)

氏 名 竹村千秋 中田明伸

評価完了日 平成 29 年 1 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業 所理念をつくり、管理者と職員は、その理 念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の啓示を行い、職員や来所者にも確認できるようにして いる。職員間でも月1回のミーティング時に意識できるよう に話し合っている。 ありがとうあふれる事業所づくりをめざし、目標を申し送り 時に口に出して言っている。 (外部評価) 開設時に作成された理念はわかりやすい言葉で構成され、住 み慣れた地域で利用者の思いに沿ったケアを目指す事業所の 方向性が示されている。理念は玄関や事務所に掲示し、入職 時には管理者から説明している。職員は個々に理念を踏まえ た目標を立て、ユニットリーダーとの面談で達成状況を確認 し、実践につなげている。愛媛県の新人介護職員職場定着促 進プロジェクトに参加し、職員が定着する職場づくりの課題 に取り組むことで、チームワークの強化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続け られるよう、事業所自体が地域の一員とし て日常的に交流している	(自己評価) 散歩時にご近所の方に声かけ、会話を持ったりする。また、 行事の際には、近所に案内を出し、参加してもらっている。 近くの施設との交流を持ち、良い関係を持てている。地域の 行事の案内が町内会よりあり、参加している。 (外部評価) 町内会に入会し地域情報は回覧板や運営推進会議の参加者か ら得ており、祭りや年末イベント等地域行事にも参加してい る。夕涼み会、ボランティアによる三味線演奏会などの事業 所行事の案内チラシを地域に配布し、参加を呼びかけてい る。利用者は日々の事業所周辺の散歩を楽しみにしており、 花を届けてくれたり事業所前を清掃してくれる地域住民との 会話を楽しみにするなど、温かな関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認 知症の人の理解や支援の方法を、地域の 人々に向けて活かしている	(自己評価) 家族会で、認知症サポーター講座を開いた。講座には地域の 方も参加して下さった。継続して講座を開けるように努めたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1度の運営推進会議を行い、サービスの実施や運営について報告し、助言や意見をもらっており実際にサービスに反映したこともある。(家族会の開催や運営推進会議に行事を行ったなど)	
			(外部評価) 家族や町内会長、民生委員、市担当課職員、市社会福祉協議会職員などの参加を得て2か月毎に開催している。会議では事業所からの報告だけでなく、地域の情報発信や運営に関する率直な意見交換が活発に行われ、具体的に課題を発見するなど、効果的な会議になっている。行事と合わせて開催することで家族の参加が増え、サービスの質の向上につながったと実感している。リビングの一角でオープンに開催し参加しやすい環境にすることで、利用者や職員が気軽に参加し事業所の暮らしに触れることができる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に、行政や包括支援センターの職員、社会福祉協議会の職員の方に参加頂いている。 また、必要時に介護保険課や生活福祉課の方と電話などで連絡を取り合っている。	
			(外部評価) 市担当者には運営推進会議に毎回参加を得られ、利用者の生活に実際に触れてもらうことで実情を伝えている。地域包括支援センターとは空き状況の確認を通じて定期的に連絡を行っている。また事業所連絡会に参加することで地域の同業者との交流が持てるようになった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 年に1回は虐待・拘束についての勉強会を行っている。転倒の危険性があっても拘束せずに状態観察・状態把握を行い、利用者が安全に過ごせるように支援している。玄関の施錠は行っていないが、フロアーの出入りを施錠することもある。その際は、継続的にならないように職員で話し合い必要がなくなれば中止している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。所内研修の機会を設け、全職員の正しい理解へとつなげている。玄関はセンサーを活用し日中開放している。職員の見守りで自由を確保しているが、利用者の状態に応じ、安全確保のために施錠をする旨、家族等に了承を得ている。転倒のリスクが高い利用者には夜間センサーマットを活用している。スピーチロックの研修会に参加し、言葉での拘束について学び、内容を職員間で共有し慣れの対応について振り返ることで、利用者が受入れやすいような声かけに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修に参加している。ミーティングの時に研修の報告を行い、勉強会を行っている。ホーム内でも虐待に当てはまるケアをしていないか話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホーム内研修で制度の理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、十分に説明を行い理解を頂いている。また、改定があった場合には、文章で通達し、不明な点については質問が出来るように伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を開催し、家族間の交流や意見や思いを聞くことが出来た。面会や電話で家族の意見や意向を確認している。ご本人や家族の意向があれば、職員間で話し合い努力している。 (外部評価) 利用者からは生活の中で意見や要望を聞いている。家族との良好な関係構築として、日々の電話連絡や面会時の会話を大切にしている。運営推進会議への参加や、家族会の開催などで意見や要望を引き出すよう努めている。意見や要望には早期に対応するように努め、運営に反映するように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、リーダーや職員とのコミュニケーションを取り、関係づくりに努めている。月1回、ミーティングを行い職員の意見、改善・提案を聞き運営に反映している。 介護労働安定センターの働きやすい職場づくりのプロジェクトに参加している。 (外部評価) 職員は幅広い年齢層で構成され、男性職員の割合も多く、互いの経験を尊重した関係にある。月2回のリーダー会、職員ミーティングを開催し、課題について話し合ったり自由に意見交換をしている。職員の精神的な面にも配慮し、気になる職員には管理者が声をかけ、相談にのっている。開設3年目にして職員間のチームワークが高まってきたと実感している。結婚や出産など職員の生活状況に応じた異動、事務担当者等職員の雇用など、法人は職員が働きやすい環境を第一に考えており、職場環境の整備について余念がない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 入職時に給料水準や労働時間の説明を行っている。介護職員定着プロジェクトに参加して、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内、グループ内の研修の参加や外部研修へ参加できる体制を整えている。研修内容の共有をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着サービス協会に加入した。研修に参加をできるように努めている。 近隣の施設の勉強会やイベントに出席し、ネットワークづくり、地域との交流機会もとれている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新規の入居が決まったら、利用者・家族の要望を聞いて、新しい場所でも安心して暮らせるように努めている。コミュニケーション技術の向上を図り、本人と信頼関係築けるように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス前に面談でアセスメントを行い、これまでの経緯、生活状況を聞くことで、困っている事・心配事を安心して話してもらえる関係づくり、ニーズの把握に努めている。必要な場合は複数回の面談や電話連絡を行い、信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用前に利用者と家族に面談して施設見学を行っている。アセスメントをもとにその人に沿った支援が出来るように努めている。利用に関してできないサービスがあることもご理解いただいている。法人のリハビリなどのサービスや老人保健施設の利用も検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人一人できることを見極めて無理のないように職員と一緒にいき、暮らしを共にすることで、信頼関係・なじみの関係を築けるように努めている。家事への参加やレクリエーションを一緒に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への連絡・報告をこまめにとり、家族と相談しながら一緒に支援の方向性を決めている。利用者の状態報告を月1回手紙にて行っている。必要時には家族の協力を得て外出の機会を増やしたり、外出をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得ながら、自宅へ外出をしたり、友人との面会や電話連絡が出来るように支援をしている。 ホームでの生活が長くなると散歩・外出先が馴染み場所になっているので支援を継続している。 (外部評価) 入居時にセンター方式を活用して利用者の情報を収集し職員間で共有することで、これまで大切にしてきた思いの把握に努めている。友人や知人からの電話や、家族や親戚の面会の機会も多くあり、利用者を大切に思う気持ちで対応することができている。年賀状を発送したり、事業所から郵便物を発送する際、利用者の手紙を同封することで家族や大切にしたい人とのつながりが継続するよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人の意向や好み、生活歴を把握し共通の話題を提供するなど、良好な関係が築けるようにしている。リビングで過ごすことが多いので、会話が盛り上がりったり、お互いを気に掛ける言葉も出ているので、なじみの関係が築けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 関係が断ち切らないように、必要時には相談でき、支援できるように努める。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々関わっていく中で、会話や表情から一人一人の思いや意向を理解できるように努めている。その人らしい生活ができるように支援をしている。プラン作成・見直しに合わせて以降の確認を行っている。 (外部評価) 利用者の生活歴を把握し、日常の自然な会話の中の思いを大切にしている。認知症状の進行により、思いを伝えることが困難になっている利用者も多く、やりたいことを具体的に選択できるように声かけをしている。利用者一人ひとりの思いに沿った支援について、一緒にゆったりと過ごすことに課題を持っている。	事業所の生活の中で思いや暮らし方の希望など情報を収集し、職員間で共有しているが、入居時の情報を更新するまでに至ってはいない。利用者とゆったり過ごす時間を確保し、一人ひとりとじっくり向き合いながら思いや暮らし方の意向を掴み、情報を定期的に更新して欲しい。利用者をより深く知り、より現状に即した介護計画書の作成へとつながることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人と家族、在宅ケアマネジャーや入院先の病院から情報収集を行い、入居前の生活状況把握に努めている。フェイスシートや暮らしの情報を元に利用者との会話を増やし、理解している。ホームで生活しだしてから知ることも多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居時に聞き取りの中で一日の過ごし方について聞いている。利用者一人一人の生活リズムに合わせて支援が出来るようにしている。カンファレンスや日々のケアの中で話し合いケアができるように包めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ホーム内でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。3か月毎にプランの振り返りをして、利用者の状態変化に応じて支援につなげている。家族には意向を聞いている。 (外部評価) 3か月毎を原則とし、大きな変化がない場合は6か月毎に、変化に応じて介護計画の見直しをしている。利用者や家族から収集した意見や要望を取り入れ、毎月のミーティング時に職員間でアイディアを出し合い介護計画を作成している。職員担当制を敷き、担当職員が中心になって介護計画を立案し、モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 訴え・様子・課題判断・方針に分けてケア記録を記入している。申し送り・カンファレンスで情報共有して支援につなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護タクシーの利用や出張理容店を利用している。利用者一人一人の要望・家族からの要望を聞きながら柔軟に対応できるように努めたい。 ボランティアに依頼して、演奏会を開いた。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員と地域の方の協力で、お茶会を開くことが出来た。近隣のスーパーに買い物に行ったり、公園や施設を利用している。ボランティアに来てもらうために、ボランティアセンターを活用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 同法人から月2回往診に来られている。毎週1回訪問看護も 今年度より利用している。受診が必要な場合は病院受診して いる。他受診の場合は家族の協力で受診している。訪問歯科 を利用して、治療・ケアを行っている。 (外部評価) 母体である医療機関を利用者の多くがかかりつけ医としてい る。かかりつけ医の往診は月2回あり、訪問看護との医療連 携が心強い。管理者も看護師であり、利用者や家族、職員に とって安心感へとつながっている。母体医療機関への通院は 職員が同行し、希望する医療機関への受診は家族の協力を得 て支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 今年度より訪問看護を週1回利用している。より医療と連携 が取れるようになった。ホームの看護師の負担は減った。 ホームの看護師とは、ちょっとした変化でも相談して指示を あおいでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院がスムーズにできるように情報の共有や支援を行って いる。入院中も病院側との連携をとり、退院時の受け入れが 出来るようにしている。ご家族にも入退院時には同行をお願い している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族や重度化や終末期の説明は行っている。病院の医師や看 護師、家族と相談しながら方向性を決めている。 (外部評価) 看取り指針を整備している。開設以降利用者や家族からの看 取りの希望はないが、看取りケアがいつでも実施できるよう 定期的に研修の機会や状況に応じた話し合いを設けて職員の 不安を軽減し、備えに努めている。事業所としてできること を説明し、利用者の状況に応じてその都度話し合いの機会を設 けて意向を確認し、納得が得られる対応に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に対応できるようにホーム内で勉強会をしている。訪問看護に連絡して指示をもらい、病院につなげている。緊急時には訪問できる体制です。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと、避難訓練を年2回行っている。町内会長、民生委員、地域の方にも参加いただいている。備蓄に関しては、緊急時に備え準備した。 (外部評価) 年2回、昼夜間想定での避難訓練を消防署立ち合いにて実施し、具体的なアドバイスをもらっている。事業所独自の災害対策マニュアルを整備し、備蓄品も備えている。避難訓練には利用者も参加し、地域住民の協力が得られている。事業所外への避難経路は複数確保され、共用空間に避難を妨げるものがないよう整理されている。	夜間や職員の少ない時間帯での避難には不安があり、繰り返しの訓練や地域住民の協力は欠かせない。消防署から避難時間の短縮や居室の避難完了目印の設置など指導を受けており、具体的な課題を解決させ、利用者が安全に避難できるよう取り組んで欲しい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の人格を尊重し、言葉づかいに気を付けて尊重の保持や自尊心を傷つけないように努めている。プライバシー確保できるように努めている。 (外部評価) USBメモリーなどは金庫に保管したり、イニシャルや居室番号での会話や記録ファイルを広げたままにしないなど、日常のケアの中でプライバシーの保護を大切にしている。面会簿は個別にすることで他者の情報が漏れないように改善した。新聞に使用する写真についても同意を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望が添えるように好みや趣味を把握して、環境づくりをしている。自己決定しやすい雰囲気づくりに努めている。散歩や買い物、外出、行事には本人に選択できるように声掛けや関わりを心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の活動ペース、どう暮らしていくかを重要視している。会話やしぐさの中から思いをくみ取り一人一人に合わせた支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 今日着る服を自ら選べる人に関しては選んで着てもらっている。散髪は、訪問理容を利用したり、近くの理容店に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 玉ねぎの皮むきや野菜・果物のカット盛り付けなど利用者に合わせてできることをしている。洗米や食器洗い・食器拭きも日常生活として行っている。 月に1・2回バイキング食やクリスマス会、誕生日会を開いて好きなものを選んで楽しみながら食事をしている。 (外部評価) 調理専門の職員が配置され、2ユニット分の献立や買い物を担っている。調理専門の職員が不在時にはケータリングサービスを利用している。毎回職員が検食し、食事簿で管理している。利用者の好みを聞きリクエストに応じながら、季節感のある献立が立てられ、誕生日には手作りのケーキで祝っている。箸や湯飲みなどの食器は愛用のものを使用している。また利用者は下ごしらえなど座ってできることを中心に職員と一緒に準備をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的な体重測定を行い、体重の把握に努めている。毎食の食事量把握、こまめな水分補給が出来るように努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケア実施している。ケアが不十分な利用者については仕上げ、介助を行っている。治療が必要な利用者については歯科往診で対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別に排泄チェック表を活用し、排泄パターンや排泄時間を把握して、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレでの自然排泄を基本に支援している。利用者の自尊心を大切にさりげない見守りを行い、夜間帯のポータブルトイレの活用など、習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実施し、できることを奪わないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 病院と連携して、受診・往診時に排泄の相談はしている。できるだけ、緩下剤を使わないように、青汁・乳酸飲料・センナ茶を飲用している。便秘に良いとされる体操も取り入れている。水分をこまめにとれるように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番や入浴時間の希望に沿って支援できるように努めている。自分で着脱・洗身できるように声掛けしている。	
			(外部評価) 各ユニットに個別浴槽があり、浴槽は可動式で身体状況に応じた活用ができる。基本的な利用回数や予定はあるが、利用者や状況に合わせて柔軟な対応ができるよう入浴準備を行っている。入浴が大変苦手な利用者もあり、無理強いせず誘い方に工夫しながら支援している。好みのシャンプーなどを使ったり入浴剤を使用するなど、利用者一人ひとりの体調や希望等を尊重し入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人の習慣・体調に合わせて休憩・休息をしてもらっている。睡眠時間もとれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診や病院受診時に、症状・状態報告を行っている。処方された薬は、薬局からもらっている処方箋を確認し、効果・副作用の確認を行っている。服薬の際には職員2人で確認し、誤薬防止に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者のしたい事、食べたい物、趣味など、コミュニケーションして、実現できるように支援している。新聞を購読している方もおられる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の意向を確認し、ドライブや買い物、近所へ散歩など、外出の機会を設けている。家族の協力にて、家に帰られる方、外食を楽しむ方もおられる。 (外部評価) 事業所周辺を日常的に散歩し、買い物でスーパーに出かけたり、餌を持参して神社へ鳩を見に行くなど、気分転換がはかれている。母体医療機関の受診で馴染みの人に会ったり、外出計画を立て蘭や桜など季節の花を楽しんでいる。また家族と外出を楽しむなど、協力を得ながら利用者の行きたいところに出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の所持金は預かっていない。行事ごとで必要な場合、必要な物を購入は、引き落としにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要な場合は、電話や手紙のやり取りの支援をしている。今年は年賀状を送ってみました。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの飾りつけや行事を行い、季節を感じてもらえるように努めている。清潔な環境で生活できるように努めている。 (外部評価) 共用空間は明るく広々している。家庭での団らんを思わせるくつろぎのスペースと、食事をとるダイニングスペースが別々に確保されている。畳敷の和室コーナーがあり、体を横たえて休んだり、洗濯物をたたんだりと多目的に使用している。玄関には歓迎のメッセージボードや季節の飾りつけが施され、足を運びやすい雰囲気づくりに工夫されているほか、適度な温度や湿度を保ち清掃が行き届くなど、居心地のいい環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや畳、ダイニング席でテレビを見たり、会話したり過ごしている。利用者どうしで馴染みの関係が築けるように支援をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に置くものは、使い慣れたものや馴染みの物を持ってきている。居心地のいい場所づくりに努めている。 (外部評価) ベッドやエアコンが備え付けられ、仏壇や使い慣れた家具を持ち込んだり床に敷物を敷くなど、利用者が思い思いの部屋にし居心地よく過ごせるよう配慮されている。転倒の危険性が高い家具には転倒防止用の伸縮棒を設置するなど、対策にも余念はない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室に張り紙や目印をつけてわかりやすくしている。個々に応じて、シルバーカーや車イスを使用している。歩ける方はできるだけ歩けるように支援をしている。状況把握に努め必要な支援を心掛けている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	389011037
法人名	医療法人ミネルワ会
事業所名	グループホームミネルワ
所在地	松山市金山5丁目717-1
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節ごとに行事を行っている。 ・母体が病院の為、緊急時など24時間体制で連絡・対応できる。 ・食事面では、その日の材料次第だが利用者のリクエストメニューに応えられる。また、行事や誕生日のメニューも充実している。喫茶や食事の外出もある。 ・歩行する機会を持ち、廊下や階段の歩行や散歩で健康づくりをしている。また、ラジオ体操・口腔体操・シナプソロジーを行い、機能の維持向上や脳トレーニングに努めている。 ・気分転換を重視し、ドライブや外出行事を計画し実行している。 ・月2回の往診と週1階の訪問看護があり、健康管理の面で安心できる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

私鉄沿線の閑静な住宅街にある開設3年目の事業所である。母体は医療機関であり、関連施設として老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホームなどを備え、各分野の専門職員による福祉サービスを展開している。利用者や家族から信頼されるとともに、地域に根ざし住民にも親しまれる事業所を目指し管理者と職員が日々ケアの充実に努めている。医療連携体制として訪問看護の導入や看護師の配置など、利用者の健康面を24時間体制でサポートしている。共用空間のバルコニーやテラスは明るくゆったりとした解放感を放っており、リビングの一角には和室の畳コーナーを設け、体を休めるくつろぎのスペースになったり洗濯物を畳む場所になるなど、多様に活用することができる。専門の資格を保有し自己研鑽に努める職員が多く、それぞれ個々に目標を持って業務に励んでいる。利用者の生活に寄り添い本人本位のケアを目指しながら、認知症介護の専門性を活かした地域貢献にも期待できる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームミネルワ

(ユニット名) 如月

記入者(管理者)

氏 名 竹村千秋 山住裕之

評価完了日 平成 29 年 1 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を玄関ホールに提示しており、職員だけでなく来訪者にも理解できるようにしている。 理念を元にした公人の目標を申し送り時に声に出して意識付けをしている。 ありがとうあふれる事業所づくりを目指している。	
			(外部評価) 開設時に作成された理念はわかりやすい言葉で構成され、住み慣れた地域で利用者の思いに沿ったケアを目指す事業所の方向性が示されている。理念は玄関や事務所に掲示し、入職時には管理者から説明している。職員は個々に理念を踏まえた目標を立て、ユニットリーダーとの面談で達成状況を確認し、実践につなげている。愛媛県の新人介護職員職場定着促進プロジェクトに参加し、職員が定着する職場づくりの課題に取り組むことで、チームワークの強化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩時に近所の方に挨拶し、会話を持つようにしている。地域行事の案内が町内会より回覧されており、参加できるときはしている。近隣の施設とも交流を持ち、良い関係を持てている。	
			(外部評価) 町内会に入会し地域情報は回覧板や運営推進会議の参加者から得ており、祭りや年末イベント等地域行事にも参加している。夕涼み会、ボランティアによる三味線演奏会などの事業所行事の案内チラシを地域に配布し、参加を呼びかけている。利用者は日々の事業所周辺の散歩を楽しみにしており、花を届けてくれたり事業所前を清掃してくれる地域住民との会話を楽しみにするなど、温かな関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 家族会で認知症サポーター講座を開いた。講座には地域の方も参加して下さった。継続して講座を開けるように努めたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1階の運営推進会議を行っており、サービスの実施や運 営状況について報告し、助言や意見をもらっている。実際にサー ビス内容に反映している。家族会の開催や運営推進会議時に行事 を行うなど。	
			(外部評価) 家族や町内会長、民生委員、市担当課職員、市社会福祉協議会職 員などの参加を得て2か月毎に開催している。会議では事業所か らの報告だけでなく、地域の情報発信や運営に関する率直な意見 交換が活発に行われ、具体的に課題を発見するなど、効果的な会 議になっている。行事と合わせて開催することで家族の参加が増 え、サービスの質の向上につながったと実感している。リビング の一角でオープンに開催し参加しやすい環境にすることで、利用 者や職員が気軽に参加し事業所の暮らしに触れることができる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には、行政や包括支援センター・社協職員の方に参加 していただき、関わる機会を持てている。また、必要時には電 話連絡等で相談している。	
			(外部評価) 市担当者には運営推進会議に毎回参加を得られ、利用者の生活に 実際に触れてもらうことで実情を伝えている。地域包括支援セン ターとは空き状況の確認を通じて定期的に連絡を行っている。ま た事業所連絡会に参加することで地域の同業者との交流が持てる ようになった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 転倒などの危険性があっても、拘束せずに状態観察・状況把握を 行い、利用者の特色を掴み、安全に過ごせるようにしている。夜 間は玄関の施錠をするが日中はしていない。各フロアの見守り が困難な状況時に施錠している。継続的な施錠はしていない。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。所内研修の機会を設 け、全職員の正しい理解へとつなげている。玄関はセンサーを活 用し日中開放している。職員の見守りで自由を確保しているが、 利用者の状態に応じ、安全確保のために施錠をする旨、家族等に 了承を得ている。転倒のリスクが高い利用者には夜間センサー マットを活用している。スピーチロックの研修会に参加し、言葉 での拘束について学び、内容を職員間で共有し慣れの対応につ いて振り返ることで、利用者が受入れやすいような声かけに努めて いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修に参加し、職員の知識や意識を高めている。内容でも虐待に当てはまるケアをしていないか話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部や研修の内部研修に取り上げ、制度の理解を深めている。関係者との話し合いは機会を持てておらず、今後取り組みたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分に時間をとり、説明している。疑問点はその都度説明し理解を得るようにしている。また、改定があった場合は文書で通達し、不明な点は質問が出来るように伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を開催し、家族間の意見や思いを聞くことができた。普段の面会時や電話連絡の際にも、意見や要望を確認できるように連携している。日頃の様子をこまめに報告している。 (外部評価) 利用者からは生活の中で意見や要望を聞いている。家族との良好な関係構築として、日々の電話連絡や面会時の会話を大切にしている。運営推進会議への参加や、家族会の開催などで意見や要望を引き出すよう努めている。意見や要望には早期に対応するように努め、運営に反映するように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者はリーダーや職員とのコミュニケーションをとり、関係づくりに努めている。日々の申し送りやミーティング時に職員の意見を聞き、運営に反映できるようにしている。介護安定センターの働きやすい職場づくりのプロジェクトに参加している。 (外部評価) 職員は幅広い年齢層で構成され、男性職員の割合も多く、互いの経験を尊重した関係にある。月2回のリーダー会、職員ミーティングを開催し、課題について話し合ったり自由に意見交換をしている。職員の精神的な面にも配慮し、気になる職員には管理者が声をかけ、相談にのっている。開設3年目にして職員間のチームワークが高まってきたと実感している。結婚や出産など職員の生活状況に応じた異動、事務担当者等職員の雇用など、法人は職員が働きやすい環境を第一に考えており、職場環境の整備について余念がない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 入職時に給料水準や労働時間の説明を行っている。法人代表者の定期的な施設訪問があり、運営状況や職場環境についての相談・報告をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内、内部の研修への参加をしている。自己研鑽できるように研修に行く機会を確保している。研修内容の共有もしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着サービス協会に加入した。近隣の施設の勉強会やイベントに出席し、ネットワークづくり、地域との交流機会もとれている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 当施設の理念である、心と心の対話ができるように、利用者本人と滅に会話する時間を取り、安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談でアセスメントを行い、ニーズの把握に努めている。必要で あれば面談や電話連絡を行い、関係づくりをしている。 面会時に声掛けして、家族に日常生活を報告している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) グループホームの入居のほか、法人の他のサービスや老健の利用 も検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者との信頼関係はあり、家事の参加や体操などの健康づくり を利用者と職員が一緒に行い、信頼関係の向上に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 生活の様子、入居以前の情報、医療の情報提供などを情報交換で きている。新たなケアの提供に、必ず家族の意見を聞いてから実 行に移している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) グループホーム内での生活が主になっているため、なじみの人に 会いに行くことはできていない。家族以外の友人や知人の面会は 受け入れており、交流できるように配慮している。馴染みの場所 や好きなことを把握し、外出する機会は持てている。 (外部評価) 入居時にセンター方式を活用して利用者の情報を収集し職員間で 共有することで、これまで大切にしてきた思いの把握に努めてい る。友人や知人からの電話や、家族や親戚の面会の機会も多くあ り、利用者を大切に思う気持ちで対応することができている。年 賀状を発送したり、事業所から郵便物を発送する際、利用者の手 紙を同封することで家族や大切にしたい人とのつながりが継続す るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居室で過ごすことが少なく、リビングで全員が過ごすことが出来ている。会話が盛り上がり、良好な関係を築けている。利用者によっては、人の好き嫌いがあり、相性が良くない場合があるが、職員の介入により大きなトラブルなく過ごせている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、必要時は経過の支援をしている。相談できる関係性を築くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者ごとに担当者となる職員がつき、日ごろから関わりを多く持つようにしており、思いや希望を把握するように努めている。職員で申し送りし、全員が利用者のことを知れるように努めている。プランの見直し時期には意向を確認している。 (外部評価) 利用者の生活歴を把握し、日常の自然な会話の中の思いを大切にしている。認知症状の進行により、思いを伝えることが困難になっている利用者も多く、やりたいことを具体的に選択できるように声かけをしている。利用者一人ひとりの思いに沿った支援について、一緒にゆったりと過ごすことに課題を持っている。	事業所の生活の中で思いや暮らし方の希望など情報を収集し、職員間で共有しているが、入居時の情報を更新するまでに至ってはいない。利用者とゆったり過ごす時間を確保し、一人ひとりとじっくり向き合いながら思いや暮らし方の意向を掴み、情報を定期的に更新して欲しい。利用者をより深く知り、より現状に即した介護計画書の作成へとつながることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェースシートや暮らしの情報を元に、利用者とは話をし、理解している。家族の情報提供からも把握につなげている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活の中で、利用者本人が自分でできる事・介助が必要なことを見極めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3か月毎にモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者の生活状況を常に職員間で意見交換し、計画に反映させている。家族の意向は面会時や電話で確認をとっている。予定が合えばカンファレンスに参加してもらっている。 (外部評価) 3か月毎を原則とし、大きな変化がない場合は6か月毎に、変化に応じて介護計画の見直しをしている。利用者や家族から収集した意見や要望を取り入れ、毎月のミーティング時に職員間でアイデアを出し合い介護計画を作成している。職員担当制を敷き、担当職員が中心になって介護計画を立案し、モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 訴え・様子・課題判断・方針に分けて介護記録を記入しており、情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。情報漏れがないようにチェックしながら記入している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護タクシーや出張理容店を利用している。演奏ボランティアに依頼し、演奏会を行えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣のスーパーに買い物に行ったり、公園や施設の利用をしている。神社や海にもよく行っている。(鳥のエサやり)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 同法人から月2回の往診がある。また、毎週火曜日に訪問看護を 本年度より利用している。その他必要な場合は受診している。法 人外の病院には家族の付添にて受診している。訪問歯科診療も毎 週利用している。 (外部評価) 母体である医療機関を利用者の多くがかかりつけ医としている。 かかりつけ医の往診は月2回あり、訪問看護との医療連携が心強 い。管理者も看護師であり、利用者や家族、職員にとって安心感 へとつながっている。母体医療機関への通院は職員が同行し、希 望する医療機関への受診は家族の協力を得て支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護の利用により、医療連携が以前よりもとれるようになった。 ホームの看護師の負担が減った。日々、看護師に医療面の相 談をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の受け入れがスムーズにできるように、情報提供や支援を 行っている。入院中も病院側との連携をとり、退院時の受け入れ が出来るようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族へ重度化や終末期の説明は行っている。病院の医師や看護 師、家族と相談しながら方向性を決定している。 (外部評価) 看取り指針を整備している。開設以降利用者や家族からの看取り の希望はないが、看取りケアがいつでも実施できるよう定期的 に研修の機会や状況に応じた話し合いを設けて職員の不安を軽減 し、備えに努めている。事業所としてできることを説明し、利用 者の状況に応じてその都度話し合いの機会を設けて意向を確認し、 納得が得られる対応に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応はホーム内の研修で確認している。法人内の病院と連携しており、24時間連絡・相談できるように体制を作っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防・避難訓練を年2回、消防署立会いの下行っている。地域の方も参加していただいている。備品は緊急時に備えて準備している。 (外部評価) 年2回、昼夜間想定での避難訓練を消防署立ち合いにて実施し、具体的なアドバイスをもらっている。事業所独自の災害対策マニュアルを整備し、備蓄品も備えている。避難訓練には利用者也参加し、地域住民の協力が得られている。事業所外への避難経路は複数確保され、共用空間に避難を妨げるものがないよう整理されている。	夜間や職員の少ない時間帯での避難には不安があり、繰り返しの訓練や地域住民の協力は欠かせない。消防署から避難時間の短縮や居室の避難完了目印の設置など指導を受けており、具体的な課題を解決させ、利用者が安全に避難できるよう取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報が入っているメモリーは金庫に保管している。また、書類などは書庫にカギをかけている。利用者の話をする時はインシヤルで会話をしている。言葉かけの内容や対応は利用者により使い分けている。 (外部評価) USBメモリーなどは金庫に保管したり、インシヤルや居室番号での会話や記録ファイルを広げたままにしないなど、日常のケアの中でプライバシーの保護を大切にしている。面会簿は個別にすることで他者の情報が漏れないように改善した。新聞に使用する写真についても同意を得て使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者からやりたい事の提案があれば、優先して実行している。買い物や散歩、外出時は本人に選択してもらっている。強制的に誘導していない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペース、どうしていくかを重要視し趣味や日課を行い、その人らしい暮らしになるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自ら選べる人はその日の服を選んでいる。こだわりのある方へはアクセサリーやヘアアクセサリーをしている。職員が選ぶ場合は色合いや寒暖に合わせて着替えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の皮むきなどの下ごしらえや盛り付けを一緒に行っている。食器洗いや片付けもしている。バイキングや外食・誕生日など、食の楽しみを持っている。食事にBGMを流して雰囲気づくりをしている。 (外部評価) 調理専門の職員が配置され、2ユニット分の献立や買い物を担っている。調理専門の職員が不在時にはケータリングサービスを利用している。毎回職員が検食し、食事簿で管理している。利用者の好みを聞きリクエストに応じながら、季節感のある献立が立てられ、誕生日には手作りのケーキで祝っている。箸や湯飲みなどの食器は愛用のものを使用している。また利用者は下ごしらえなど座ってできることを中心に職員と一緒に準備をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的な体重測定を行い、体重コントロールできるように支援している。必要なケースには水分チェックをしている。食事量記入し、把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自力でできない方には、声掛け・軽介助・介助している。訪問歯科診療を受けるケースもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的な声掛けを行い、トイレで排泄できるようにしている。排泄チェック表を作成しており、排尿リズムを把握できるように努めている。 (外部評価) 排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレでの自然排泄を基本に支援している。利用者の自尊心を大切にさりげない見守りを行い、夜間帯のポータブルトイレの活用など、習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実施し、できることを奪わないケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤を使用するケースは調節している。センナ茶や青汁の飲用や便秘予防の体操を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1人30分は時間をとり、ゆっくりと入浴できている。入浴する日は振り分けているが、希望や都合によっては、関係なく入浴できるように対応している。 (外部評価) 各ユニットに個別浴槽があり、浴槽は可動式で身体状況に応じた活用ができる。基本的な利用回数や予定はあるが、利用者や状況に合わせて柔軟な対応ができるよう入浴準備を行っている。入浴が大変苦手な利用者もあり、無理強いせず誘い方に工夫しながら支援している。好みのシャンプーなどを使ったり入浴剤を使用するなど、利用者一人ひとりの体調や希望等を尊重し入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の習慣を大切にし、ゆっくり休めるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の処方箋のもと服薬し、その人の状態観察を行い変化があれば、職員間・医師に相談して調整している。処方箋・服薬管理表をカルテに綴じ、薬剤管理している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の参加、新聞の購読、裁縫、読書、散歩などをして過ごしている。生活歴や本人の特技を活かした活動を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的に散歩・ドライブに行っている。買い物の付添をしていただいている。特定の利用者だけにならないように配慮している。家族支援での外出もできている。 (外部評価) 事業所周辺を日常的に散歩し、買い物でスーパーに出かけたり、餌を持参して神社へ鳩を見に行くなど、気分転換がはかれている。母体医療機関の受診で馴染みの人に会ったり、外出計画を立て蘭や桜など季節の花を楽しんでいる。また家族と外出を楽しむなど、協力を得ながら利用者の行きたいところに出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持金は基本に預かっていない。本人の希望により所持している方もいる。所持している方でも支払いは家族からいただくか、口座引き落としにしている。金銭トラブルの防止	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要であれば対応している。今年は利用者から家族へ年賀状を出した。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日掃除を行い、清潔感のある環境づくりをしている。季節の花を飾ったり、季節にあった飾りつけをしたりしている。天気の良い日にはテラスに出て外気浴やシャボン玉をして楽しんでいる。 (外部評価) 共用空間は明るく広々している。家庭での団らんを思わせるくつろぎのスペースと、食事をとるダイニングスペースが別々に確保されている。畳敷の和室コーナーがあり、体を横たえて休んだり、洗濯物をたたんだりと多目的に使用している。玄関には歓迎のメッセージボードや季節の飾りつけが施され、足を運びやすい雰囲気づくりに工夫されているほか、適度な温度や湿度を保ち清掃が行き届くなど、居心地のいい環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の愛称を把握し、せきの配置を考えている。リハビリやダイニング、畳コーナーがあり、それぞれ好きな場所で過ごすことができる。 (外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に置くものは、使い慣れたものや馴染みの物を持参してもらっている。家族写真やアルバムを持っている方もいる。本人や家族と相談して配置している。 (外部評価) ベッドやエアコンが備え付けられ、仏壇や使い慣れた家具を持ち込んだり床に敷物を敷くなど、利用者が思い思いの部屋にし居心地よく過ごせるよう配慮されている。転倒の危険性が高い家具には転倒防止用の伸縮棒を設置するなど、対策にも余念はない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室に張り紙や目印をつけてわかりやすくしている。歩行器具が必要な方は利用して自立できるように支援している。	